

キタを愛する人たちのための、キタを再発見するマガジン。ネットに載らない情報テコ盛り。

つながるひとまちぶんか

つひまぶ

都道府県事務所号

5 2024 月号

vol.24

北区魅力発信フリーペーパー「つひまぶ」vol.24 2024年5月1日発行 編集・発行：北区のおもろ通信団（編集長／浅香保ルイス龍太 編集スタッフ／秋山暁子・上田幸美・高橋愛典・西野仁・藤本賢司・松岡慧祐）協力：大阪市北区・北区コミュニティセンター・奈良県立大学地域創造研究センター 連絡先：【mail】tsuhimabu@gmail.com 【web】https://tsuhimabu.com 定価：0円 主な配布場所：大阪市北区役所・北区民センター・大淀コミュニティセンター・北図書館・大阪府立中之島図書館・大阪市住まい情報センター・大阪市北区社会福祉協議会・江之子島文化芸術創造センター・大阪市ボランティア市民活動センターほか多数（配布場所はwebにて随時お知らせします）※当雑誌の内容、テキスト、画像、イラスト等の無断転載・無断使用を禁止します。



都道府県大阪事務所のリゾーランド



大阪駅前第1ビル (梅田 1-3-1)

- 北海道 (東京事務所大阪支所)
- 青森県 (北東北三県大阪合同事務所)
- 秋田県 (北東北三県大阪合同事務所)
- 岩手県 (北東北三県大阪合同事務所)
- 宮城県 (大阪事務所)
- 福島県 (大阪事務所)
- 福岡県 (大阪事務所)
- 佐賀県 (関西・中京事務所)
- 宮崎県 (大阪事務所)
- 鹿児島県 (大阪事務所)

- 山形県 (大阪事務所)
- 新潟県 (大阪事務所)
- 群馬県 (大阪事務所)
- 長野県 (大阪事務所)
- 広島県 (大阪事務所)
- 長崎県 (大阪事務所)

大阪駅前第3ビル (梅田 1-1-3)

- 鳥取県 (関西本部)
- 山梨県 (大阪事務所)
- 熊本県 (大阪事務所)
- 大分県 (大阪事務所)
- 沖縄県 (大阪事務所)

大阪駅前第4ビル (梅田 1-11-4)

- 三重県 (関西事務所)
- 山口県 (大阪事務所) 梅田 2-4-13 阪神産経桜橋ビル 2F
- 栃木県 (大阪センター) 堂山町 3-3 日本生命梅田ビル 2F
- 島根県 (大阪事務所) 西天満 3-13-18 島根ビル 2F
- 石川県 (大阪事務所) 西天満 4-14-3 リゾートトラスト御堂筋ビル 2F

編集後記

大阪天満宮の御羽車講でルイス編集長と提灯を持って歩いたことがきっかけで、つひまぶ編集チームに新しく入った藤本です。天神祭がつないでくれたご縁に感謝です。普段は訪日外国人を大阪・京都に案内したり、夏季限定で富士登山のガイドをしたり、大学で教えていたりしています。よく天満宮にも夜に出没しています。キタの都道府県大阪事務所特集ということで、たくさんのお客さんに会い、取材楽しい！ 仕事柄、ツアー商品をつくるために取材も兼ねた下見をおこないますが、アプローチの仕方と最終的なアウトプットが違ってもおもしろさを感じます。雑誌をつくるという大義名分を隠れみのに、知的好奇心を満たしているだけと怒られることのないよう精進します。取材のために、各地の名産品に散財しまくってしまうのははや避けられない宿命か。少し危険？（主にお財布に。笑）で刺激的な都道府県大阪事務所取材でした。（藤本賢司）




今年7月、旧大阪中央郵便局跡地にオープンする商業施設「KITTE大阪」の2階フロア「Feel JAPAN Journey (ええもん)」が楽しみ。北海道から沖縄県まで、各地のアンテナショップなど、地域の優れ物を取り扱うショップが出店するのだ。リストを見ると、沖縄県、山陰地方、鹿児島県、宮崎県、倉敷市、高知県、新潟県、広島県、北陸3県、北海道…。ヤバイ！百貨店で開催される沖縄物産展や北海道展に目がない僕は、このエリアのお店をめぐるのが今から楽しみで仕方がない。

これまでホワイティうめだやJR大阪駅2階アトリウム広場などで全国各地の物産を扱ったショップが出現することはあったが、それらはあくまで期間限定のポップアップ。こちらは、常設メイン。いつでも好きなときに、全国の銘品・美味いもんを買い求めることができる。これはさながら、「令和のアリバイ横丁」ではないです

か（大阪万博が開かれた1970年以降、地下通路を挟んで阪神百貨店の向かいには「ふるさと名産」と呼ばれ、全国47都道府県の商品が買えるエリアがあった。現地に行かずとも各地の名産品をお土産として買えたため、「アリバイ横丁」と呼ばれていたのだ。2014年、阪神百貨店建て替えを機に閉鎖。

ネットでもなんでもお取り寄せできる現代では「令和のアリバイ横丁」不要論が聞こえてきそうだが、そんなことはない。やっぱり現物を手に取って、見て、買いたいものはあるし、なんなら試食だってできるかもしれない。そんな全国のええもんが、ここで手に入ります。オープンしたらソッコーで行って、散財しそう…。(ルイス)

つひまぶ web  <https://tsuhimabu.com/> バックナンバー読めるよ！

「つひまぶ」では、編集メンバーを随時募集しています。興味がある方は、Facebook ページ「つひまぶ」までご連絡ください。



今号の特集内容が決まって初めに思い浮かんだのが、山梨県大阪事務所の広瀬信吾所長である。所長と知り合ったのは私の地元（残念ながら北区ではなくその近隣）で開かれたまちづくり関連の寄り合いの席だった。フェイスブックでの日々のご投稿から察するに、大阪でのフットワークがこれほど軽い所長も、なかなかおられない。そんなわけで、「ミスター大阪事務所」広瀬所長を、大阪駅前第3ビル21階に訪ねた。

P03にある「都道府県大阪事務所の主な機能」は、ルイス編集長があちこちの大阪事務所をまわって立てた仮説であった。それを所長に1つずつたずねたところ、過不足なく立証された。となればこの記事はもう、筆を置いてもよくなってしまふが、山梨ならではの会話もたくさんうかがえた。そこで、「主な機能」を逆に（下から上へ）たどってみたい。

初めに県人会ありき

山梨県大阪事務所が大阪駅前第3ビルにできたのは1980年（昭和55年）であるが、その原動力になったのは、100年以上の歴史を誇る「大阪山梨県人会」である。県人会が1919年（大正8年）に創立された際に、阪急の創業者小林一三が最高顧問に就任している。まだ40代半ばであったはずで、今の私より若い。その年齢ですでに「大阪財界で活躍する甲州商人」の代表格であったことには、驚くほかない。

「ミスター」こと 広瀬信吾 山梨県大阪事務所 所長に聞く 都道府県大阪事務所入門

千葉市（中央区）出身の近畿大学経営学部教授 高橋愛典

山梨のように、県人会が大阪事務所より長い歴史を持つ県は多そうである。例えば、近畿富山県人会は1893年（明治26年）創立とこれまた古い。県人会が県や主要都市に出資を呼び掛けて1949年（昭和24年）に社団法人を創設し（のちに財団法人に転換）、その自社ビル「近畿富山会館」（財団もビルも同じ名前、残念ながら？ 北区でなく西区）に県の大阪事務所が入居している。

裏表紙にあるように、大阪駅前ビルには合計22の道県の事務所がある。山梨県大阪事務所は賃貸物件ではなく、開業時に県が購入した分譲物件である。大阪駅前の再開発の計画は1960年代なか頃から本格化したのであるが、この時期以降、富山あたりの動きを参考に、県人会や県庁、さらには地方テレビ局（大阪駅前ビルには大阪支社がいくつも入居している。特に第1ビル8階の福島テレビは、看板のロゴが古くて、福島県民は懐かしく思うのではないか）に働き掛けた知恵

者が、大阪駅前ビルの関係者にいたのかもしれない。

移住相談・促進とそのライバル

山梨県大阪事務所の案内チラシは、「移住・定住に関する相談窓口」であることに最大のスペースを割いている。とはいえ所長によれば「移住してくる人数が少ないからこそ、推しているんでしょね」。確かに、小林一三の頃はさておき、今の大阪では山梨出身者は珍しく、Uターンを望む人も少なそうである。Uターン希望者にとっては、山梨の隣の海なし県・長野のほうがなじみ深いという。大阪から長野を訪れるスキーヤーが多いからではないか、というのが所長の見立てである。長野は内陸では東京と大阪の中間にあるが、関西人が集まるスキー場と関東人が集まるスキー場が何となく分かれている

ふるさと納税について

ふるさと納税に関して大阪事務所は、市町村から届くパンフを配ったり、県人会の会員に勧めたりが中心である。たとえばパンフを見てふるさと納税したくなって、山梨県大阪事務所は現金を扱えないので、手続きができないという。もっとも、手続きや支払い自体はインターネットが主流であるから、その場でスマホでアクセスしてもらうのが時流にも合っている。

物産販促からの一期一会

観光情報発信・物産販促

大阪事務所はどこも観光パンフが大充実している。旅行の計画を立てる際にはぜひ訪れてほしい。マップ類や飲食店情報のみならず、歴史や文化に特化したパンフも多く、市販のガイドブックが不要なほど充実している。さらに、地元職員ならではのナマの情報が手に入ることも。

ふるさと納税

応援したい自治体の特産品情報が入手できるほか、大阪事務所に行く、パンフやサイト情報には載っていない、地元職員さんからのナマの情報を手に入れることができるかもしれない。何がお得なのかも教えてもらえるかも。また、隠れた逸品が見つかることも。

企業誘致

大阪事務所では地元の工業団地への企業誘致などをおこなっている。ほか、その都道府県で仕事をする際や地場産業と取引する際に顔を出しておく、ビジネスパートナーを紹介してくれたりもする。

IUターン・移住相談

地方の都道府県はIUターンや移住者募集に力を入れているところが多い。IUターン向けに就職あっせんなどもおこなっている。移住の場合は補助金が出るケースも多いので、ここで情報入手を。その他、婚活イベントをやっているときもあるので、ご希望の方は小まめにチェックを☆

県人会の事務局機能

大阪事務所が県人会事務局機能を持ち、交流を図るケースは多い。在阪の出身者のみならず、その都道府県に縁のある人も入会することができる場合も。



「都道府県大阪事務所の主な機能」作成
北区の都道府県大阪事務所を3周めぐってリサーチした
つみまぶ編集長・浅香保ルイス龍太

【参考文献】大阪山梨県人会『大阪山梨県人会百周年記念誌』2019年／近畿富山会館ウェブサイト knkiyoyama.com

（終）



地元出身の 親切的な職員がお出迎え

どこかに旅行に行くとき、インターネットで調べたり、書店でガイドブックを買ったりして、旅の計画を立てるのが一般的ではないだろうか。一方で、行き先の都道府県の大阪事務所に行けば、インターネットや書店とは比べものにならないくらい情報が手に入るということを知っている人は、あまりいないような気がする。少なくとも私は知らなかった。そもそも、大阪事務所が、一般の人が気軽に訪れることができる場所なんだという発想すらなかった。

ところが今回、リサーチで各事務所をまわってみると、ここが観光情報の宝庫であり、マンツーマンで対応してくれることも多く、さらにご当地の名産品まで購入することができる場合もあり、私はすっかり大阪事務所のファンになってしまった。北区には、大阪駅前第1〜4ビルを中心に、26の道県が大阪事務所を構えている。

どの大阪事務所にも膨大なパンフレットや販促ポップが置かれていて、特徴やカラーを出している。そんな事務所内で、地元出身の職員が優しく案内してくれる。とりわけ案内に「熱」を感じた、熊本県大阪事務所と北東北三県（青森県・岩手県・秋田県）大阪合同事務所の各事務所に話をうかがった。

熊本県大阪事務所では、主任主事の竹田耕岳さんの案内の仕方が興味深かった。熊本に旅行に行きたいので資料を探しているという伝えると、こちらへどうぞと、観光案内パンフレットに囲まれた広い机に案内される。そして竹田さんはおもむろに熊本全県が載っているパンフレットを

通して、そのパンフレットの特徴を把握して、案内するときに活用できるように準備します。

「コロナ禍を経て、宿泊施設や飲食店がなくなってしまうところもあり、最新情報をアップデートするのは重要なポイントです」。

北東北三県大阪合同事務所の平井さんも、「事務所に来所される方は、情報誌に載っていないようなことを聞きに来たりするので、ネットで検索しても出てこないよ

広げ、行きたい場所や滞在日数、興味のあることなどをさらりと聞き出してくれる。温泉に興味があると伝えると、背後にあるラックから温泉をテーマにしたパンフや各種温泉の案内パンフレットなどが出てくる。あるいは景色を楽しみたいとなると阿蘇山のパンフレットが出てきたり、はたまたサイクリング・マップが出てきたりと、相手のニーズに応じて、カスタマイズされた案内をしてくれるのだ。「サイクリングを楽しむ方には、コースの説明だけでなく高低差などもお伝え

“ここだけ”の情報がいっぱい 旅の情報収集は ぜひ大阪事務所で！

東京出身で大阪在住の富士山ガイド 藤本賢司

したり、公共交通機関を利用される方だと、バスの所要時間などをお伝えしたりします」と、蛍光マーカーを駆使しながら丁寧に案内される竹田さんを見ていると、この人に案内してもらって良かったと思えてくる。

さらに、「ラックのレイアウトを工夫して、臨機応変に対応できるように、どこに何が あるのかを分かりやすく並べています。お話をうかがって、目的に応じて必要なツールを出すといったことを心掛けています」とも。なるほど、対応が素早い。その引き出しの多さが素晴らしい。何を聞いても答えられるように、ドラえもん のポケットよろしく背後のラックから必

現地（大阪）採用の方以外、ほとんどの職員が地元の出身者だ。したがって、大阪事務所では、地元出身者ならではの情報が手に入るのである。

“ここだけ”の情報が満載

続いて訪れた北東北三県大阪合同事務所では、3県（青森県・岩手県・秋田県）の観光協議会所属の3名が、相談・案内業務を担っておられる。「仙台出身ですが、青森や岩手、秋田の情報に精通しています」と語る大川紀子さん、「盛岡出身で、前職の経験を生かしてアウトドアや山の

うな情報を伝えるようにしています」と。一方で、「大阪に来て10年が経ち、自分のなかの北東北情報が古くなってきました。なので情報を常にアップデートすることを心掛けています」とも。

北野さんは「例えば弘前の桜情報はネットでも見ることができますが、時期がズレてしまったとき、他にも桜を見ることができると提案できます」と地元のことを詳しく知っているがゆえの強みを語ってくれた。平井さんなら、「紅葉情報の問い合わせの場合、標高をずらしてベストスポットを案内するのはお手のもの」と、頼もしい。

点ではなく面で案内できるのは、地元を熟知した大阪事務所ならではのだろうが、こうなると、まるでコンシェルジュと見紛うほどだ。

“ここだけ”の物産の販売も

また、大阪事務所では物産を取り扱っているところも多い。北区にいながらにして、情報だけでなく、“ここだけ”の物産を求めることで、五感で各都道府県を楽しむことができるのだ。とりわけ福島県大阪事務所や長野県大阪事務所では物産が充実している印象を受けた。福島県の桃のように、入荷するとあっという間に完売するものもあり、旬のものや数かがぎられる食材は人気だ。「大阪駅前ビルグルメ」は地下の飲食店街だけではなかった。常設で物産販売をおこなっている大阪事務所はかぎられているが、イベントやポップアップで出店をし、まちのスーパーでは通常手に入らないようなものを販売しているケースもある。それぞれの大阪事

情報なら任せてください！」とおっしゃる平井奈央さん、「私は北東北には住んだことがない北茨城出身ですが、ひいき目なしのフラットな利用者目線で情報をお伝えできます」との北野瞳さんから3名が、あうんの呼吸でパトンを渡しながら、それぞれの得意分野を生かした案内をされている。

さらに、「旅行会社の添乗員さんも来られます。最新情報をはじめ、旅行会社では網羅できないような細かな情報を聞きに来られることが多いですね。あと、ツアーのコースをつくられる際の相談に来られたりとか。これまでに紹介されたことのない新しいスポットや、季節の情報、最新のグルメ情報などを聞きに来られることもありますね」。

といった具合に、旅行会社よりも情報を持っていくケースもあるようだ。そしてどこまでもキメが細かい。

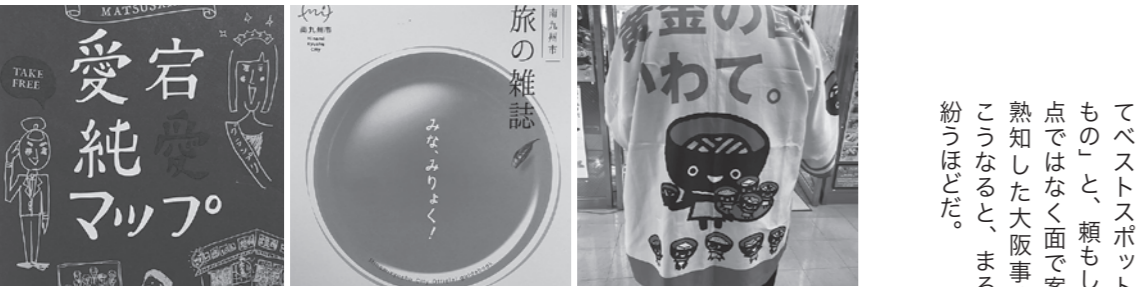
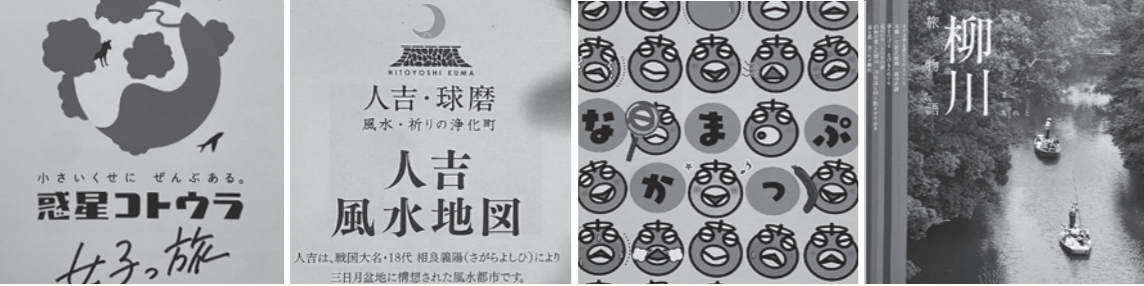
「とにかく地元のおいしいものを知りたかったら、惜しみなくお伝えするので、ぜひ大阪合同事務所に来ていただきたい。来所が難しければ、電話対応でのパンフレットの送付もおこなうのだとか。

「旅行のたびに相談に来られるリピーターの方もいらつやいます。また、旅行から帰ってきて、報告に来てくれる方も。新しく道が整備されていたよとか、新しいお店がオープンしていたよと、こちらが教えてもらうこともあり、ご案内して良かったと思える瞬間ですね」と3人も話される。もはや常連と言えるような人も、10人以上いるらしい。相談に来る人の2〜3割がリピーターというも納得の神対応である。

さらに、大阪事務所の職員の人たちは日頃からの情報収集にも余念がない。前述の熊本県大阪事務所の竹田さんによると、「新しいパンフレットが来ると、必ず事務所内で回覧をして、みんなで目を

務所が公式SNSで発信しているの、それらをチェックすると良いだろう。なかでも、毎年12月に大阪駅前第1ビルに入居する13県の大阪事務所が合同で開催する「ふるさと観光と名産品まつり」は、それぞれの事務所ですとときだけの名産品が販売され、毎年楽しみにしている人も多い。

観光情報収集から物産販売まで、大阪事務所には“ここだけ”の魅力が詰まっている。活用しない手はない。（終）



全国トップクラスの補助金

どの都道府県大阪事務所もそうだが、福島県大阪事務所は足を踏み入れると、まず数多く並べられた観光パンフの一群が目に入る。市町村別の案内やアクティビティ別、テーマ別に作成されたパンフ類は、どれから手に取っていいのか迷うほどの数だ。入って右手には、県の民芸品である赤べこの巨大な張り子、左奥には数々の県産品が常設で販売されている。僕の大好きな「うまくて生姜ねえ!!」もちゃんと販売されている。



入会は縁故者もOK

県人会ってお花見のときに「〇〇県人会」と書かれたのぼりを立てて飲んでいるイメージがある。同郷の人たちで集まってお酒を飲んだり、方言で喋り合ったり、同じ県の知らない場所の話聞いたりするのは楽しいだろうなと、なんだかからやましい気持ちになる。

私は三重県出身だが、三重県人会に入っているわけではない。入会方法も知らないし、知らないことだらけだ。お花見以外のイベントは？ 入会資格とかあるの？ ほとんどの都道府県大阪事務所には、県人会とのつながりがあるらしい。ひよんなことから、大阪駅前第3ビル21階にある大分県大阪事務所にお邪魔して、事務所次長の河室幸一さんと、関西大分県人会副会長の西村光代さんにお話をうかがうことができた。

関西大分県人会は1938年（昭和13年）発足、今年で発足87年になるという。大阪だけでなく京都や奈良、兵庫など関西在住の大分県出身者やその縁故者によって組織されている。現在の会員数は1800人くらいとのこと。県人会の会員の紹介・推薦での入会のほか、推薦者がいなくてもネットでの入会の申し込みも可能だとか。興味深かったのは、出身者だけでなく、その縁故者も入会OKという点だ。厳密に審査があるわけではない、親睦団体だからだろうか。西村さんとはご両親が大分出身で、千日前で郷土料理のお店「九州八豊やせうまだんご汁」を経営されている。「私は2世ですが、気が付いたときにはすでに県人会に入っていました。学生時代に親のお店の手伝いをしていて大分出身のお客さんがたくさん来られ、いつでも周りに大分があったから」と、入会のきっかけを話してくれた。

は828社。どのようにして誘致し、また大阪事務所はどんな役割を果たしているのだろうか？ 企業立地担当の伊藤岳彦主任にお話をうかがった。

「震災で人がいなくなったりとところに人を戻していかないとダメなのですが、そのためには、なりわいをつくる必要があります。でも、既存の産業、例えば農業や漁業だけでは人を引っ張れない。ですから、新しい産業を興したいんです。そのための企業誘致をおこないたいと考えています。」さらに、国からの補助金が全国トップクラスだということも訴えています。東日本大震災で被害を受けた避難指示区域などに工場等を新増設する場合だと、最大4/5以内の補助率で最大50億円の補助金が出ます。こうしたことが意外と知られていないんです。

もちろん、補助金が手厚いこと以外にもたくさんメリットがあり、それらをPRすることも忘れない。「大阪事務所では西日本の企業さんにPRするのが仕事です。震災等があったときのために、BCP(事業継続計画)の観点

関連が57団体ある

県人会と大阪事務所の関係も聞いてみた。「大阪事務所のなかに県人会の事務局を置かせてもらっています。県からの情報をもらって会員さんへイベントのお知らせをしたりしています」と西村さん。大阪事務所の立場からは「県人会のほかにも大分県関係の各団体があるので、情報を共有しています。また、県人会に入会したいという方への入会案内もしています」と河室さん。県人会のほか、市町村、高校などの同窓会なども含めて57団体があり、そちらへも情報を共有している。大

関西大分県人会に聞く、県人会のこと

親睦だけでなく、盛り上げ役を務めるのも県人会の役割

「応援都市」を毎年選出

会報誌を拝見すると、現在の県人会の会長は写真からお若い雰囲気がある徳村初美さん。副会長の西村さんのみならず、会長も女性というのは、珍しいかもしれない。「女性ということですが、執行部の平均年齢が40代で、かなり若い役員で構成されています。県人会のLINE公式アカウントもあるんですよ。そこで、



ふるさと納税と企業誘致

大阪事務所の役割は主にパイプづくり

企業版ふるさと納税

から、西日本以外にもう一つ東日本にも拠点を持たせませんか？と提案しています。福島は首都圏に近く、新幹線で1時間半、物流も3時間もあれば着くので、じゅうぶん拠点になり得ます。さらに、東北の玄関口なので、福島を拠点にさらに北へネットワークを広げられます。」金融機関、デベロッパー、先端企業、すでに進出している企業の関連、あるいは関西経済連合会や商工会議所等の経済団体にも訪問し、セミナー等で情報を提供したり、現地ツアーを実施したりしている。もちろん、業界の展示会にも顔を出す。「飲み屋で隣同士になったのが縁で知り合った企業さんもあります。営業活動とおなじで、常にアンテナを張っているからこそ出会いもあるよっだ。」さらに、すでに福島に進出している企業へ、御用聞きのようなこともするのだとか。雇用や用地取得の面でニーズがないかどうかを探るためだ。また、福島空港のビジネスサポート・キャンペーンの案内などもおこなうと言った。流す情報は大小多岐にわたる。彼らと付き合うことは、企業にとってもメリットが大きいのではないだろうか？

物産展やイベント、お得な情報の発信もしています。

甲子園の春夏の高校野球、花園の高校ラグビー、京都でおこなわれる高校駅伝など、学生スポーツの全国大会は、関西で開催されるものが多い。その応援も、県人会として向かう。高校野球のチケットが出場から贈られ、甲子園のアルプス席で大分からの応援団と一緒に応援する（このページにある写真は、明豊高校が出場した2021年夏の甲子園大会でのもの。取材時にスマホからその場で送っていたのだ。やはり、若い！）。ほかに「サロン」と呼ばれる会員の自立的な集まりがあり、歌謡コーラス部や

三重県志摩市出身の提灯絵書き職人 むしまつ

ゴルフ同好会、ランニング同好会など会員同士の親睦を深めたりもしているよう。総会は毎年7月に開催。毎年、その年の推しの市町村を「応援都市」として決めているとか。応援都市に決まった市町村には関西でのイベントに参加してもらったりして、PRしていくと話す。応援都市の首長は、総会にも参加されるというから、県内での関西大分県人会の位置付けが分かるというもの。来年の2025年は大阪・関西万博も開催されることから、特別イベントを検討しているとのこと。お話をうかがって、会員同士の親睦もさることながら、大分県を関西から盛り上げていきたいとの熱い気持ちがすごく伝わってきた。私も三重県人会に入ろうかな。(終)



1000人いれば1000通りの移住のかたちがある

移住の話をしているとよく出てくるのがUターンやJターン。最近ではJターンと呼ばれるものもあるのだが、このUターンっていったい何なんだ？ ご存じの方も多いだろうが、軽くおさらいしておく。

Uターンとは、生まれ故郷のA地方からどこか別のB地方へ移り住み、その後元のA地方へ戻り住むこと。Jターンは生まれ故郷のA地方からどこか別のB地方へ移り住むことを指し、一方通行でターンの要素はない。Jターンとは生まれ故郷のA地方からどこか別のB地方に移り住み、その後生まれ故郷のA地方付近の都市部や周辺地域に戻り住むことを指し、Uターン以上Uターン未満となる。他にもたくさんのターン現象はあるのだが、突き詰めればUターン派生となる。

人の動きを地図上でアルファベットに見立てると、多様な人口還流のかたちがある現在では、どのアルファベットも使用可能となり、軽くゲシュタルト崩壊しかけたターン(た)。

さて、この移住。辞書では他の土地または国へ移り住むとあるが、いくつかの大阪事務所で聞いた話を整理すると、移住を考えたときのヒントが見えてきた。

例えば、福岡県大阪事務所主任技師の仲田友希美さんは、「コロナ禍においては人的移動制限もあり地方移住は一時停滞しましたが、都市部にいることのリスクやライフスタイルを見直す余裕ができたことで、逆に移住への関心は高まっているように感じます。外出制限が逆に在宅勤務のかたちを生み、通勤しなくてもよくなったことから、地方移住の関心が高まりました」と分析している。

を担当されている。早速、移住を考える際の肝をお聞きすると、

「この場所でも言えることですが、100%理想通りの仕事や暮らしが待っているわけではないと行平さん。」「だからこそ、何のために移住するのかが大切になります」と河野さん。

漠然と素敵な暮らしを夢見るのではなく、明確な目的意識を持って、そこから逆算して考えるプロセスが大切だということだ。

常に相談者に寄り添う 移住相談を(島根県)

その第一歩になるのが、移住情報のポータルサイト。今どきは、たいいていの都道府県にそうしたポータルサイトが用意されていて、島根県だと、ふるさと島根定住財団が「くらしまねっと」を運営している。

トップページには移住支援情報をコンパクトにまとめた動画があり、「育児をしている女性の有業率が全国1位」「保育所待機児童数が0人」など、島根県は子育てしやすい県なのだということが数字で示され、求人情報の常時掲載数や移住までのプロセスやその支援などが約2分のうちにコンパクトにまとめられており、島根県の移住事情のあらましが把握しやすいようにつくられている。

「まず、『くらしまねっと』に会員登録していただくことをおすすめしています。会員登録では、UターンかJターンか、移住を検討している地域、移住時の家族形態など、さまざまな条件を選択していただき、初期段階の整理をしていただきます」と行平さん。移住相談における問診票みたいなものだろうか。

そこから先は、大阪事務所の移住相談スタッフが、住環境に求めるポイントや働き方の希望など、少しずつ具体的なこと

島根県大阪事務所+αに聞く、移住するまでのプロセス

勇気(U)と愛(I)で移住(J)を決めた(ターン)ら大阪事務所へ行ってみよう

北区で生まれ北区で育ち北区で朽ちる北区のサラブレッド 西野仁

さらに、「国もさまざまな移住支援策を講じていますが、ひと口に移住といっても人によってイメージしているものや求めるものが違い、1000人いれば1000通りの移住が存在します。このように、多様な移住の目的やかたちがあると、沖縄県大阪事務所主査の石川希さんは話す。

何のために移住するのかを明確にすることが大切

そうは言っても、移住を考えたとき、どこに相談すればいいのかすら、よく分からない。そんなとき、じつは各都道府県の大阪事務所が頼りになるのだ。幸い、北区には数多くの都道府県が大阪事務所を構えている。

そこで、どんなふうに関わりになるのか、どんなふうに関わりに乗ってもらえるのか、移住までのプロセスについて、島根県大阪事務所にお話をうかがった。同事務所には移住相談スタッフが常駐しており、移住相談に手厚いイメージがある。

西天満の島根ビル2階の事務所の扉を押してなかに入ると、島根出身の移住支援コーディネーター・行平敬子さんと大阪出身の移住企画プランナー・河野良太さんが迎えてくれた。さらに学生担当の大谷万里子さんを加えた3名が、移住相談

に踏み込んで案内する。そうすることで、相談者が思い描く移住のイメージの解像度を上げていく手助けをするのだ。

段階が進むにつれ、ふるさと島根定住財団や島根県内の各市町村のスタッフなどに受け渡すリレー方式で、相談者の移住までの歩みを進めてくれる。

そうやって相談者に寄り添い、段階を踏むことで、移住前の理想と移住後の現実とのギャップを埋めていくことが、移住成功の秘訣になる。AI搭載のマッチングアプリにはない、人に寄り添う思いや愛情のなせることだろう。

だからこそ、行平さんや河野さんは「常に相談者に寄り添う移住相談を心掛けています」と話す。

さらに、「コロナ禍以降はオンライン相談も増えました。ご自宅にネット環境のない方は、大阪事務所にて大阪の相談員と対面、島根のスタッフとはオンラインといった3者相談もおこないます」とも。

また、大阪事務所主催のイベントも数多く、移住体験ツアー『しまね暮らしツアー』や、島根ファンや先輩移住者が集まるトークイベント『本日、しまね日和』などがおこなわれている。先輩移住者と話せる機会には不安解消にもつながり、移住希望者には心強いことだろう。

ツアーでは、地域おこし協力隊の方など地域住民との交流会、先輩移住者のお宅訪問、空き家やリノベ物件の見学、生活環境の案内など、移住をより具体的にイメージできる内容となっています」とのこと。ツアーには大阪から河野さんが添乗するのも、相談者にはありがたいのではないだろうか。

まだまだ具体例は尽きないが、このようにして、相談者に寄り添う担当者と出会えるのも、ポータルサイトだけでなく、それぞれの都道府県の大阪事務所を利用するメリットだろう。(西野仁)



数多くの大阪事務所が並ぶ大阪駅前第1ビルでは毎年12月に「ふるさと観光と名産品まつり」を開催しお国自慢の名産品を販売している

福島県大阪事務所では福島産の旬の果物が定期的に販売される

ミス大阪事務所と呼ばれた物産の広瀬信吾山梨県大阪事務所長が、ついに山梨県へ異動、お疲れさまでした。



長崎県の「坂道のアポロン」熊本県の「放課後ていぼう日誌」長野県の「サマーウォーズ」などアニメ好きにはたまらん聖地巡礼マップが大阪事務所ですぐに入手できることが多い

今年7月に旧大阪中央郵便局跡地にオープンする「KITTE 大阪」2階は、全国のアンテナショップ「Feel JAPAN Journey (ええもんにつぼんめぐり)」!

お酒を販売していない都道府県大阪事務所は酒類販売免許を取得していないケースが多い

天神橋2丁目商店街の南森町交差点北側ではいろんな都道府県の名産品がポップアップで販売される

島根県大阪事務所が入る島根ビルは名前がおなじだが島根県の持ちビルというわけではない

阪急大阪梅田駅2階中央改札内に都道府県のアンテナショップが期間限定で出店されることが多い。改札内というのが少し変わっている。物販をしている大阪事務所は観光連盟などの人が常駐しているケースが多い。物販をしていない大阪事務所は都道府県職員しかいないケースが多い。



ディアモール大阪円形広場横には都道府県の名産品がポップアップで販売されるスポットがある

と読んでいたら、そんなことはない、ド1ジマ地下センターに常設アンテナショップ「岩手・青森ええもんショップ」があった。ごめんごめんごめん!

泉の広場すぐ西にある「新潟をこめ」はキタにある唯一の都道府県の常設アンテナショップ

熊本県大阪事務所には、HONDAの今はなきモンキーが展示されている。しかも、くまモンとコラボ!



大阪には34の都道府県が大阪事務所を置いているうち、キタには26の都道府県が大阪事務所を置いている。大阪駅前第1ビルには16道県、大阪駅前第3ビルには5県、大阪駅前第4ビルには1県、独立系が4県、これまでに大阪から撤退した都道府県は6県

阪急阪神東宝グループの創業者の小林一三は山梨県出身で大阪山梨県人会の最高顧問も務めた。同会では定期的に小林一三記念館の見学会を実施している



長崎県大阪事務所には軍艦島のジオラマがある。佐賀県と大阪駅前第1ビル振興会は毎年1月に同ビルで餅つきをおこない、つきたての餅を通行人に振る舞っている。米は佐賀県が提供



大抵の都道府県には県民手帳があつて、だいたい大阪事務所では販売されている



キミは誰?

ホワイティうめだセンターモールのFARURU西隣のスポットでは、いろんな都道府県の名産品がポップアップで販売される



どの都道府県大阪事務所にも膨大な種類のパンフが配架されており、どれもお金がかかっており、デザイン的にすぐれたものが多い。駆け出しのデザイナーさんは、お金を出して参考書を買うより、各大阪事務所をめぐって、優れたパンフ類を持ち帰るほうがよほど勉強になる。しかもすべてタダ!

福島県大阪事務所内にある福島県観光物産館大阪サテライトショップにはスタンプカードがあり、1000円ごとに1スタンプが押され、スタンプ20個で500円券となる。毎週水曜日は2倍デー。

めったに登場しない青森県の決め手くん



大阪市の東京事務所は何

都道府県大阪事務所の魅力を知るも平日なのでめったに行けない。悲しき公務員、愛媛県出身の秋山暁子

をいつくるのか?

どが上京してきた場合のアテンド、国会や各省庁の情報収集、大阪市の各部署への情報提供です。大阪・関西万博を控え市長・副市長の上京も多いようで、その都度、政府関係者など訪問先との調整をし、つつがなく東京での各種要望や会議出席がおこなわれるようサポートしているそう。

ちなみに大阪市東京事務所は、現在、東京都千代田区平河町にある都道府県会館の大阪府東京事務所内にあります。「昔は日比谷公園にある市政会館というレトロロ口でかっこいいビルに、単独で事務所を構えてたんやけどな」と、某先輩談。昨今の府市連携の流れを受けて、現在は大阪府・堺市の東京事務所と、一緒に3事務所が並んで席を置き、業務に当たっているとのこと。各事務所の職員は、他の2事務所の職を併

大阪市には東京事務所があると、ご存じでしょうか?

都道府県大阪事務所には、今号の制作中、「大阪市東京事務所はどんなところ?」と疑問が湧き調べたところ、なんと現在の所長が元北区役所政策推進課長の高村和則さん! じつは私の元上司! ご縁しか感じない状況を知り、早速連絡を取ってみました。

東京事務所長は大阪市の職制では部長級、3万5千人を超える大阪市職員のなかで、部長級以上の職に就くのは300人弱。昨年の春に昇任し東京事務所長となった高村さんの下、副所長1人、係長4人、現地採用の会計年度任用職員1人の計7人体制で東京事務所を切り盛りしています。東京事務所の主な仕事は、市長や副市長な

任しており、それぞれがしっかりと連携することが大切だそう。そんなことより高村さん、東京へは単身赴任ですか?

大阪市の人事異動は、異動の数日前に内示されます。さすがに東京への異動を数日前に知らされても準備が整わないので、通常より少し前には教えてもらえそう。これまで、東京事務所は3年間の勤務を基本としてきましたが、大阪を離れて東京を志願する職員は多くないよう。わ、私も、息子たちを大阪に残しての東京勤務はご勘弁ください、とついつい思っています。

東京での生活には、借り上げ公舎や単身赴任手当といった大阪市内で働くときとは違う補助もあるそうですが、東京から大阪まで家族に会いに帰ってくるにも交通費がかかります。でも、東京から大阪への管外出張のついでに家族に会うことはできますが、私用で帰阪するための交通費の支給はありません。

そんなわけで単身赴任となった高村さん、50代を迎えて初めての1人暮らしをすることになり、日々の家事は当然自分で行わなければなりません。「簡単な食事はつくっていただきます。でも、外食が増えたかな? 冷凍食品も充実しているので助かっています」。慣れない東京勤務ですが、「なんでも楽しもう」という精神で向き合っているそう。私の上司だったときも、高村さんは明るく接してくれていた!

地元・大阪からの要望と国政側の考えと、両方の思いが分かるがゆえに大変なときもあります。東京事務所の職員同士上手く連携を取りながら仕事を進めているよう。休日、気が向けば都内を中心に出掛けています。東京勤務だからその経験を大切にしたいですね。(終)

都道府県大阪事務所にはマップがいっぱい あえて事務所で紙のマップを広げて、 地図にワクワクを取り戻せ！

岡山県生まれ香川県育ち大阪府在住の奈良県立大学地域創造学部准教授 松岡慧祐

マップの研究者がまずやるべきことは、資料となるマップを収集することですが、各地域で制作されているマップは、基本的に現地に行かないと入手できないものだと思います。出不清の私にとってはそれが大きなネックだったのですが、このたび都道府県大阪事務所には全国各地のマップがずらりと並んでいることが発覚！ なんとという灯台下暗し…。あまり知られていないようですが、じつは都道府県大阪事務所は観光情報を収集するのにつけてつけの場なのです。そこで、普段は北区内が対象のマップを紹介する本コラムですが、今回は拡大版として、北区内の都道府県大阪事務所にあるマップについてお伝えします。

各事務所に行く、そこには大小あれど、いわば「マップのライブラリー」のようなスペースがあり、すべてのマップを持ち帰ることができる、あつという間にバッグが満杯になります。自分だけではちが明かず、編集メンバーの協力を得て、なんとか北区内の全事務所からマップをかき集め、自宅に保管しようとしたところ、書齋が大きく占拠されることに。これでも全部ではないのですが、1つ1つのマップに目を通している日が暮れていました。でも、マップ研究者にとつてはぜいたくな時間です。

さて、マップの前身ですが、大阪事務所が扱うものなので、自治体や観光連盟が発行した行政単位の観光マップが大半を占めたのだとか。まさか事務所にマップの制作者がおられるとは思っていませんでしたが、三重県関西事務所にマップがとりわけ充実しているのは、こうした観光関連部署との結び付きの強さゆえなのでしょう。また三重がロケ地になった『宮和也主演の『浅田家』』や、目黒蓮主演の『わたしの幸せな結婚』といった映画作品のロケ地マップを出したときには、普段は事務所に無縁の若い女性ファンたちがマップ目当てに殺到したそうです。

しかし、瀧川さんは「心配事もあるんで

す。ただ、なかには小さなまちや離島を対象にしたマップ、民間発行のマップなどもあり、じつに多種多様。全県の総合的な観光マップだけでなく、ドライブ/サイクリング/トレッキング/散策など目的別にテーマが設定されたマップも少なくありません。前者はかかなり大判の紙に全域的に描かれるのが基本ですが、後者のうちサイクリングマップは自転車で携帯しやすいようにコンパクトに折り畳める仕様になっており、用途・テーマに応じたサイズ感の違いも楽しめます。公的な機関が扱うマップにはなんとなく凡庸で堅苦しいイメージもありましたが、最近は予算の投下によって洗練されたデザインのマップも増え、地域のブランディングに活用されるようになってい

るようです。そのなかでも特にマップの充実度が高かったのが、熊本県と三重県。事務所スタッフはマップづくりに関わっているわけではないので、制作の経緯や工夫などをたずねることはできませんが、現場でマップがどのように活用されているのを知りたくて、両県のスタッフにお話をうかがいました。

熊本県大阪事務所対応してくださったのは、主任主事の竹田耕岳さん。来所者には、まず熊本のとどこに行きたいか、どの交通手段で移動するかをたずね、全県の総合ガイド「くまもと旅マップ」や、主要観光地の間の所要時間・距離が記載されたマップ、電車やバスの時刻表などを見てもらいながら、

ら、その人のニーズに応じた提案をされる

そうです。まるで旅行会社のようにですが、旅行会社よりも県内のマップが豊富に取り揃えられているため、地元をよく知るスタッフがいるいるなマップを繰り出しながら、よりきめ細かい観光案内ができるのが県事務所ならではの強みです。事務所にあるマップのなかで個人的に気になったのが、すべて手描きのイラストマップがかわいい「ナゴミめぐりタクシーガイド」（和wat町地域雇用創造協議会。和wat町周辺は公共交通が不便なため、タクシー会社の案内を兼ね、タクシーでめぐる3つのモデルコースが、所要時間・金額とともに詳しく紹介されています。ペーパードライバーの私にとっては貴重なマップですが、さらには今まで聞いたこともなかった和wat町という小さなまちへの興味が増すきっかけにもなりました。また「天草イラストマップ」（天草宝島観光協会）は、風光明媚な天草の島々が生き生きと描かれ、全景を広く見晴らすことができ立体的な鳥瞰図風のマップで、イラストの域を超えた緻密で味わい深い表現が、旅情をかき立てます。

竹田さんは熊本から送られてくるこのようなマップ1つ1つに目を通してきます。特にコロナ禍の前と後では、飲食店や宿泊施設の情報が変わっていることが多いため、そのチェックには抜かりがありません。ご自身も旅行に行く際には他県の事務所に立ち寄り、そこにあるマップを広げながら「どこ温泉に行こうか」などと計画を練るのだ

そう。だからこそ、ホストにまわる際には、マップを用いた観光案内にここまで力を注がれるのでしょうか。

続いて三重県関西事務所を訪れると、マップが部屋じゅうに所狭しと並べられ、とにかくその種類の多さに驚かされます。町単位でも細かく分類されており、孤野（このの）町や度会（わたらい）町など、あまり聞きなじみのないまちにもいろいろなマップがあります。津のうなぎグルメ「うまっぶ」（津市観光協会）や、「大阪鶏焼き肉とりとりマップ」（NPO法人DOFF松阪）など、ご当地グルメ系のマップも。営業推進課主事の瀬古京佳さんによれば、「三重県のなかでもここまでマップが揃っている場所はないと自負しています。県庁よりも多いのは間違いないですが、もしかすると観光連盟よりも多いかもしれません」とのこと。確かに観光案内所では、その地域周辺のマップは提供されていますが、必ずしも県内全域のマップが網羅されているわけではないでしょう。熊本県大阪事務所と同様に、来所者のニーズに応じて適宜マップを紹介しているそうですが、「三重は意外と観光地が多いので、伊勢志摩に行くついでに、その周辺にも寄っていただきたくて、そういうときに度会町のマップなどが役立ちます」と瀬古さん。そんな瀬古さんが「行政にはつれない攻めたマップ」としてプッシュするのは、地元のクリエイティブチームが松阪の歓楽街である愛宕町を対象にスナック・バー・キャバクラなどのナイトスポットを紹介した「愛宕純愛マップ」（vacantです。このようなマップをデザインすることができるのも、大阪事務所ならでは。また、副所長の瀧川佳昭さんが「おすすめるはこれと決まっています」と即答したのは、「ゆる旅すぽつと伊勢志摩」（伊勢志摩観光コンベンション機構。理由は、「かつて自分をつくったから」で、写真撮影もご自身でされ

れをなぞるだけの旅になってしまいがち。それに対して、大阪事務所には多彩なマップは、より多くの選択肢を与えてくれます。選択肢が多過ぎると、かえってなを選べばいいかわからなくなるものですが、そんなときはきつと事務所のスタッフがコンシェルジュになってくれることでしょう。SNSやグーグルマップから断片的な情報を引き出すだけでなく、旅行会社や市販のガイドブックによってつくり込まれた台本を読むだけでなく、あえて事務所でマップを広げ、スタッフと対話することで、旅をデザインしていく。都道府県大阪事務所にはこのようにして地図にワクワクを取り戻す可能性が開かれています。（終）



←石川県の庄巻の鳥観図は七尾市のデザイン会社が「開発し商標登録した「マナッパ」の仕様で制作されている。取材オファーを出す直前に令和6年能登半島地震が発生したため、取材を自粛。ご無事を祈っています。

今号で焦点を当てたのは、都道府県大阪事務所。取材を進めるなか、鳥取県関西本部長に高務（たかつかさ）裕子さんという女性が就任されていると聞き、訪ねました。鳥取県関西本部がある大阪駅前第3ビルには、山梨県・熊本県・大分県・沖縄県の大阪事務所が入居しており、今回の情報を提供してくれたのが山梨県の事務所長。大阪駅前第1・3・4ビルには、計22道県の大阪事務所が集まっており、お互いに情報交換もするのでしょうか。

鳥取県関西本部の扉を押してなかに入ると、ほかの都道府県大阪事務所とたがわず県内各所の観光案内・移住促進・企業誘致；さまざまなパンフレットが迎えてくれ、立ち止まって思わず眺めてしまいます。鳥取県「ナシ！ 砂丘！」というイメージでしたが、カニを忘れてた！ イチゴもがばつてるんだ〜！ と見ていると、事務所の奥から1人の女性がここに顔で駆け寄って来て、「こんにちは、本部長の高務です」とあいさつが済むとすぐ、棚から「これがいいかな」と冊子を数冊ピックアップして向かう廊下には、1粒の米の写真の上に大きな文字で「星空舞」と書かれたクッションが置かれており、「今いち押ししの県のブランド米です。卯年の去年、因幡の白兔で推していた鳥取県、辰年はなにで推そうかと、眺めていると：ほら、かたちが龍に見えてきた！ ということで「とっとりリュウ皇」で推している、なんて豆知識をいただきました。会議室に入り、取材スタート！です。

静かでファンタジーの世界にいた子ども時代
「お生まれは鳥取ですか？」。最初の質問

置くポイントが少し違うようです。東京本部は、主に中央省庁とのパイプの役割を担っており、鳥取県の課題や要望を伝えたり予算など国の情報を集めます。観光情報の発信や県産品の販路促進に注力している関西本部とは異なる動きです。「東京まで県産品を届けるには輸送コストがかかってしまいます。特に安価な農作物などは、特徴がないと東京近郊の自治体



写真 / 浅香保ルイ龍太 聞き手・書き手 / 秋山暁子

今年の鳥取県は「とっとりリュウ皇」推し！
鳥取県って龍に見えますよね？
ね！

をした瞬間、「では早速：」と笑いながら鳥取県の地図を広げる高務さん。鳥取県のことをPRしたい！という気持ちがあるふれ出てしまうようです。高務さんが生まれたのは米子市。東西に長い鳥取県では西端に位置しています。「でも、米子の記憶はあまりなくて：」

「両親の仕事の関係で2〜3年で引っ越しする生活でしたので、生まれたのは米子ですが記憶にあるのは鳥取市に住んでいたときくらいからかな」と高務さん。いわゆる転勤族でしたが北海道から沖縄まであちこちへというわけではなく、小学1年生で鳥取市、2〜6年生は広島市、中学1〜2年生で米子市に戻り、中学3年生と高校に通う3年間は鳥取市、そして大学進学で広島市へと、鳥取県と広島県を行ったり来たりしています。

「引っ込み思案で本が好きで子どもだったのですが、その場所になじんでいくことが得意になりました。自分を合わせていくだけでなく、その場所ならではの楽しみを満喫できるようになりました」。転校生ならではの苦労よりも、楽しみを見つけたら、ベッドで寝ていたそ

との競争に勝つのは難しいと感じます。東京本部がある都道府県会館には、各都道府県の東京事務所が入っており、交流もありに参加しますが、一方で関西広域連合にも所属しているから、そちらにも呼んでもらえて。なんだかお得だなぁと思います」と笑う高務さんは、明るく社交的で、引っ込み思案だったという少

うです。誰にも気付かれなくらい、静かだったということ。読書が好きだったという高務さんが当時読んでいた本は、「ナルニア国物語」、「三銃士」、「ああ無情」、「指輪物語」など世界文学がずらり。ファンタジーの世界に入り込み、主人公になった気分が冒険を楽しむのが好きだったそうです。「じつは国語の教員免許を持っていて」と続けます。小学生の頃からたくさん本を読んでいたおかげで、文章を読むのは今でも得意。「仕事で役職が上がると、自分が書くだけでなく部下の書いた文章を直す機会も増えます。今だと観光PRのための文章やあいさつ文、寄稿文といろいろな文章を添削する機会が多くありますが、苦じゃないですね」。

鳥取県庁に入庁

広島市の大学を卒業後、高務さんが就職したのは、社会人教育をおこなう広島市の民間企業。教員免許はありましたが、生徒の人生を背負うことの重さ考えたとき、まだまだいろんなことを勉強しておきたいという思いも浮かび、外国人に日本語を教える仕事を選んだそうです。ところが就職して間もなく、京都にいたお姉さんから「結婚して京都で暮らすから、もう鳥取には帰らない」と知らせがありました。「鳥取には両親がいて、てっきり姉が帰るものだと思っていました。年を取っていく両親を離れた地に置いておくのは心配だし、私が鳥取に帰ろうかなという考えが頭をよぎりました。そのときに就職先として考えたのが鳥取県庁。まずは試験を受けてみよう！と挑戦して見事合格。2年勤めた会社を辞め、鳥取県職員として新たにスタートを切りました。1992年（平成4年）、高務さん、24歳のこと。

「いろいろな仕事ができるのが魅力だな、女時代が、やっぱり、想像できません。関西はおもしろいですよね。会議でも自分の意見をしっかりとりますし。中国地方とはカラーが違います。思ったことを言っているんだ！と気持ち、カルチャーショックでした」。さらに、高務さんは、大阪は経済のまち。商人のまちだと実感したそうです。「鳥取県のことをいつも気に掛けてくれる大阪の社長さんと話をしていたときに、自分も上げられるだけではなく地域全体で盛り上げられないと、と考えていたのが印象的でした。広い範囲で物事を見ているんだな、と。イベントで鳥取県のブランド米「星空舞」をまずは食べてもらおうと小袋に入れて配っていたら、なんでおいしいものをタダで配るんだ？と指摘されてハツとしたこともありますね」。

関西本部長に就任してからは、県産品のPRのために関西を駆けまわる日々。特に楽しいのは、関西のシェフのみなさんのお仕事だそう。「普段の外食で食材の産地を気にする人は少ないけれど、一流レストランのシェフのみなさんに鳥取県の食材を知ってもらえると、お客さまに提供するときに説明を加えてくれます。シェフを鳥取県に招いて生産の現場を見てもらい、生産者との意見交換をしてもらうイベントも企画しています」。鳥取県の外に出たからこそ気付ける良さを知ったり、県民以上に鳥取県の良さを知っている人に出会って教えてもらう機会もあり、鳥取愛は膨れ上がる一方のようです。

女性が働きやすい鳥取県

鳥取愛をたくさん語っていた後、「そうそう、これは言わせてほしいんです！」と高務さん。鳥取県は、全国の都道府県庁のなかで、管理職に占める女性割合が、1番多いそうです。東京本部と関西本部、もう1つ県外事務所で名古屋

「とってんです」。鳥取県庁では3年おきくらいに人事異動で部署が変わり、さまざまな分野で幅広い経験を積んでいくそうです。高務さんも、国際交流、環境問題、高齢者福祉、財政と経験して管理職に進んだとのこと。

高務さんの思い出に残るお仕事は？「鳥取県倉吉市で、世界中からウォーキング・トレッキング関係者が集う国際会議が開催されたんです。日本で初めての開催でした」。民間団体が誘致した「ワールドトレイルズカンファレンス」を鳥取県として支援したそう。鳥取県民の1日の歩行数は、なんと日本のなかで最下位クラスという厚生労働省のデータもあり、これをきっかけに健康のためにもウォーキング習慣を県民に普及させたい、という狙いがありました。並行している、いろいろなイベントもおこなったそう。ちなみに読者のみなさん、安心してください！大阪府は上位クラスです。特に男性は1位。鳥取県の男性との1日平均歩数の差は約2000歩もあります。

大阪は商人のまちですね

鳥取県関西本部長に就任して、この3月で3年目を迎えた高務さんですが、前職では鳥取県東京本部副本部長を2年務めており、鳥取を離れて5年になります。「鳥取県の人口は、54万人。ゆったりと過ごせるんですよ（笑）」若い頃は都会が楽しいと思ったりもしました。でも働きはじめ、都会の満員電車は好きじゃないなと思ったし、星空が見えないな〜とか、鳥取の良さを実感しました。鳥取から見ると、関西はとても近い都会なのだそう。「交通の便が良くなって、大阪まで車で2時間で来れるから、都会は日帰りで遊ぶだけいいかな」。東京と大阪、両本部を経験した高務さん。東京と大阪の事務所では、仕事の重心を

代表部があるのですが、両本部長・部長の3人ともが女性。「三人官女って言われているんです（笑）。もちろん最初からそうだったわけではなく、就職した頃はお茶くみは女性の仕事とされていたり、正月明けは振袖で出勤したり。時代が変わったというのがありますが、元鳥取県知事の片山善博氏が女性の管理職登用を積極的に進めたのも大きな一因です。残業が多く男性ばかりだった財政課に女性の主計員が配属されるようになり、高務さんも2人目の女性職員として配属されました。女性の先輩が切り開いた道を、さらに切り開いていく高務さん。課長補佐になったとき、次長級の女性の先輩から「私の時代は討論する機会もなかったけれど、今の女性は議論に慣れている」と言われたことも印象的だったそうです」。

鳥取県は女性の就業率が高い県。共働き家庭が多いためか、女性も運転しやすい軽自動車の保有率が高く、簡単につくれるカレーのルー消費量が多いとか。その一方で女性のストレスは少ないようです。「自宅と職場との距離が近く、自分の時間を持ちやすいのかな？と思います。保育所なども充実していて働きやすい環境が整っていますし、都会と違って広々のんびりしていますから」。

最後に高務さんから見た、大阪・キタを。「キタのイメージはアグレッシブ。天神橋筋商店街なども活気がありますし、大阪駅前ビルの地下にもたくさんのお店があります。そんな都会に長屋が並ぶ景色もあり、コンパクトにいろいろなものが集まっていると思います。お気に入りの店？大阪の人ってコーヒー文化を大事にしているって感じました。私、コーヒーが好きなんです。サイフォンで丁寧にドリップしてくれたり、フレッシュがピッチャーで出てきたりするとこに愛・プライドを感じますね」。(終)